

新潟県佐渡トキ保護センター

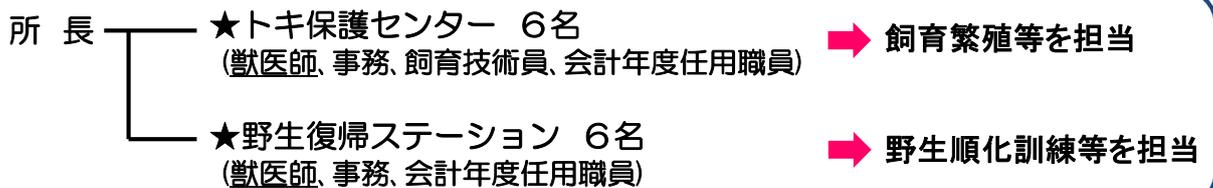
佐渡トキ保護センター

- トキ野生復帰の取組は、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧ⅠA類に位置づけられる「国際保護鳥トキ」を飼育繁殖し、かつて生息していた地域(=佐渡島)に放鳥して野生での定着を目指す世界でも屈指のプロジェクトです。
- 新潟県佐渡トキ保護センターでは、専任の獣医師を配置して、国からの委託を受け、トキの飼育繁殖及び野生順化訓練などトキ野生復帰に向けた事業に取り組んでいます。



施設の概要

- 所在地 新潟県佐渡市
- 開設 昭和42年（平成5年に移転改築、平成19年に野生復帰ステーション整備）
- 職員 トキ保護センター本所及び野生復帰ステーションに計13名の職員が常駐



野生復帰ステーション

- ・日本初の試みであるトキ野生復帰の最前線で活動している施設が野生復帰ステーションです。
- ・施設は、里山の自然を利用した広大な敷地(約23ha)に設置され、野生復帰に必要な採餌や飛翔、社会性などの生存能力を身につけさせるための訓練や、トキの自然繁殖に取り組んでいます。



順化ケージ



ケージは広さ約4,000㎡あり、十分な飛翔空間を確保し、自然に近い環境を再現しています。

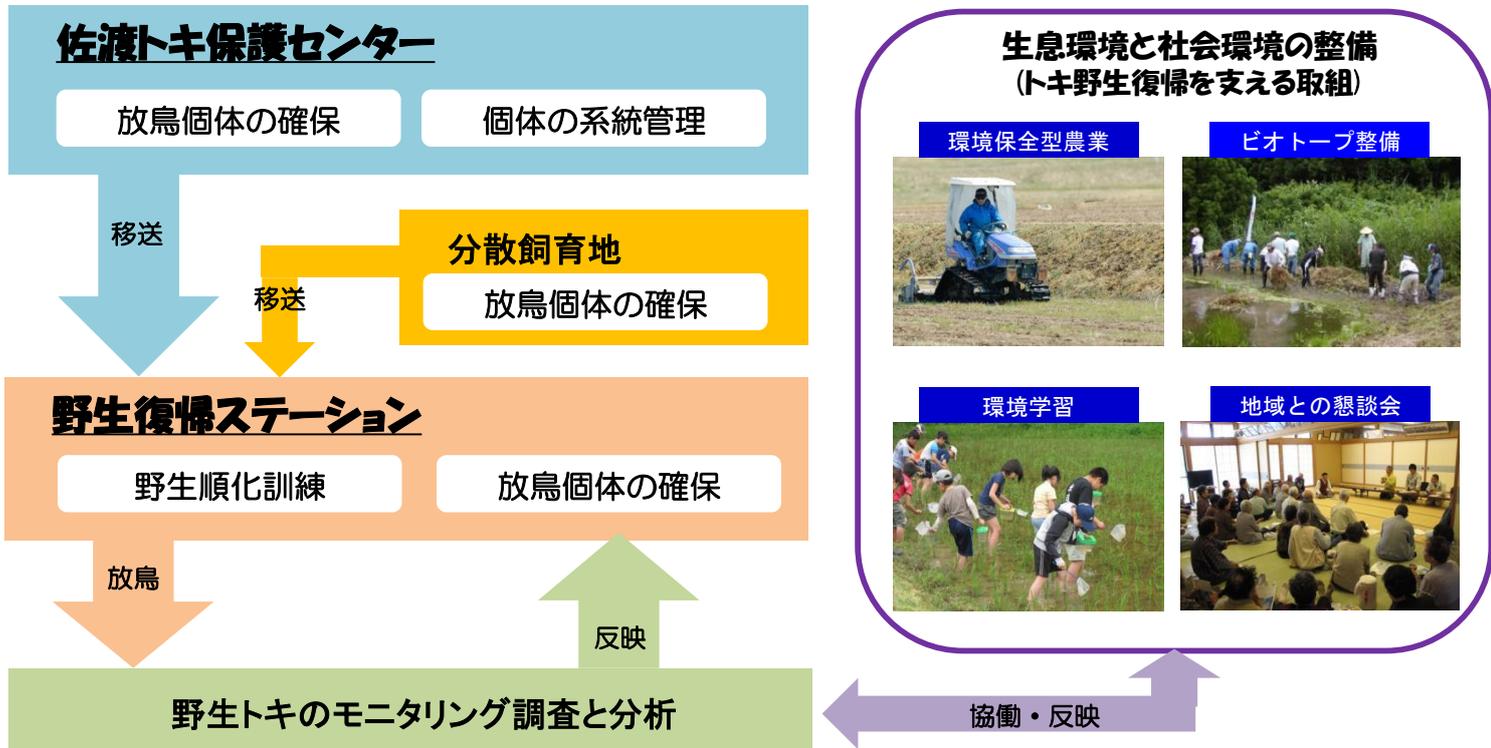
繁殖ケージ



約200㎡のケージが8棟あり、一つのケージに一組のつがいを入れ、自然ふ化、自然育すうを行います。

トキ野生復帰の取組

- トキの野生復帰事業は、佐渡島のトキが遺伝的多様性を維持しながら個体数の増加傾向を維持できることを目指し、地域の人々や関係機関の協働によって進められています。



平成20年の第1回放鳥から、これまでに延べ31回、521羽の放鳥に成功しました。
 (野生下で生息しているトキは、現在約470羽となっています)

トキ野生復帰の歩み

- 平成11(1999)年 中国からつがいのトキ(友友、洋洋)の寄贈を受け、国内初のトキの人工繁殖に成功(優優誕生)
 ※以後、毎年順調に人工繁殖が進み、羽数が増加
- 平成15(2003)年 日本産最後のトキ「キン」死亡(36歳)
- 平成16(2004)年 初めて1羽の自然繁殖に成功
- 平成19(2007)年 野生復帰ステーションで順化訓練開始
- 平成20(2008)年 第1回放鳥実施(10羽のトキが27年ぶりに佐渡の空を舞う)
- 平成24(2012)年 自然界で36年ぶりにヒナが誕生し、38年ぶりに巣立つ
- 平成28(2016)年 野生下生まれ同士のペアから誕生したヒナが42年ぶりに巣立つ
- 平成30(2018)年 「トキ野生復帰ロードマップ2020」の目標である220羽のトキの定着を2年前倒しで達成



野生下生まれのペアから生まれたヒナと親鳥 (H28)



佐渡トキ野生復帰10周年記念式典放鳥式 (H30)



中国からの新たなトキの提供(楼楼と関関) (H30)

獣医師の仕事

- トキ飼育繁殖のリーディング施設である「佐渡トキ保護センター」では、獣医師が中心となり、治療や救護等に加え、給餌や観察等の業務を網羅的に担当しています。
- 「野生復帰ステーション」においても、獣医師が中心的役割を担い、トキ野生復帰に向けた順化訓練等に取り組んでいます。

【獣医師の主な業務】

- ・トキの飼育繁殖の実施と飼育繁殖技術の維持確立
(自然ふ化・人工ふ化、育雛、健康診断、傷病個体治療、死亡個体病理解剖など)
- ・トキの遺伝的系統及び個体情報の管理
- ・トキ野生復帰への協力
(野生順化訓練、野生下トキの死亡個体調査など)
- ・鳥インフルエンザ等感染症対策
- ・中国への返還個体の検疫
- ・分散飼育地職員等への研修や視察対応など

飼育下での繁殖



佐渡トキ保護センター

トキの繁殖

- ・繁殖期 2月～6月
- ・羽色変化



交尾



産卵



給餌



育雛器



ふ化



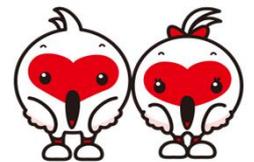
ふ卵器



飼育



飼育ケージ



野生順化訓練



身体測定



順化ケージで訓練開始



採餌



飛行



足環装着



モニターでの観察



群れ行動



人への慣れ

訓練期間:約3ヶ月

